

## §2-3. 総合的考察及び調和・不調和ペアの検討

§2-3では、§2-1の「香りの感情次元の抽出及び調和色の検討」及び、§2-2の「色彩の感情次元の抽出及び調和香の検討」の結果を全て考え合わせ、色彩・香りの感情次元、感情効果に関して、総合的に考察する。そして、色彩と香りの調和ペア、不調和ペアを検討する。

### 1. 色彩・香りの感情次元

§2-1の「香りの感情次元の抽出及び調和色の検討」から、香りの印象評定主軸として<MILD>、<CLEAR>、<DEEP>の3因子が得られた。また、§2-2の「色彩の感情次元の抽出及び調和香の検討」からは色彩の印象評定主軸として<MILD>、<CLEAR>、<ORDINARY>の3因子を得た。したがって、香りとは色彩の印象評定主軸として共通していたものは<MILD>及び<CLEAR>の2因子であった。<MILD>因子を構成する項目の中で、“女性的な - 男性的な”、“甘い - 甘くない”、“やわらかい - かたい”、“やさしい - きつい”が共通しており、色彩、香りの共通した感情次元として妥当であると思われる。<CLEAR>因子に関しては、“澄んだ - 濁った”の項目は共通していた。一方、異なったのは、香りの次元に、“単純な - 複雑な”、“好きな - 嫌いな”が属したことであった。<CLEAR>因子は、樋口他(2002)の報告における香りの「明瞭さ」に対応すると思われる。さらに、彼らは、「明瞭さ」に関して、レモン、ペパーミントが高得点、ローズは低得点という結果を得ているが、本実験における<CLEAR>因子に関しても、比較的同様の傾向(レモン、ペパーミントは高得点、ローズは低得点)を得た。色彩に関しては、彩度の高低を分ける軸と捉えられる。このように、香りの次元、色彩の次元の各々としての妥当性を顧みると、色彩、香りに共通した第2の感情次元として捉えることに問題はないと思われる。

以上の2因子で、香りの評定軸として累積寄与率は68.5%、色彩の評定軸としては56.9%であり、いずれも、半分以上を説明することができることになる。したがって、色彩と香りの共通した感情次元として、<MILD>、<CLEAR>の2因子を抽出したことは、妥当であると思われる。

さて、気分評定の結果に関して、§2-1 から、香りの気分評定主軸として<RELAX>、<GLOOMY>、<SERIOUS>の3因子を得た。すなわち、‘くつろいだ’などのいわゆるリラックスに関する軸、‘落ち込んだ’などの陰気で暗い気分に関する軸、そして‘集中している’などの冴えた気分に関する軸であった。また§2-2からは、色彩の気分評定主軸として<POSITIVE>、<RELAX>、<TIRED>、<IRRITABLE>の4因子を得ている。これらはすなわち、‘元気な’など活力のある気分を指す軸、いわゆるリラックスした気分の軸、そして‘疲れた’及び‘いらいらする’、‘うんざりした’などのストレス状態の気分に関する軸であった。色彩、香りの気分評定軸としては、<RELAX>因子が共通して観察された。その他に関しては、因子の構成項目や寄与率などに違いが見られたが、快い気分を表わす軸、不快な気分を表わす軸のどちらかに含まれる内容であると思われる。さらに、香りの軸としては、集中している状態を示す<SERIOUS>因子が第3因子として得られたが、色彩の次元としては第5因子として抽出されている。以上より、気分を表わす軸は、快い気分としては、リラックスした状態、活力が沸いた状態、冴えた状態が挙げられ、不快な気分としては、憂鬱な状態、ストレス状態が考えられる。

## 2. 色彩・香りの感情効果

以上の結果をまとめ、色彩・香りの感情次元における各刺激の因子得点を、感情効果として、Table 2-3-1にまとめた。数値は、実験A、実験Bで得た得点の結果である。印象に関しては、<MILD>、<CLEAR>の2因子に関して、得点が.5以上のものが比較的高得点と捉え、表中では太字で表記し、-.5以下のものは比較的低得点として下線を引いた。さらに、香り刺激、色彩刺激中最高得点は■で、最低得点は□で囲った。気分に関しては、色彩と香りで共通していた<RELAX>因子の他、香りの<GLOOMY>、<SERIOUS>、色彩の<POSITIVE>、<TIRED>、<IRRITABLE>の各因子において、ブランクからの得点変化を記した。得点が.5以上上昇したものを太字で、.5以上低下したものには下線を引き、香り刺激、色彩刺激中最高得点は■で、最低得点は□で囲った。

<MILD>因子、<CLEAR>因子の2因子が共通していた印象評定の結果を眺めると、バニラ、ローズ、パールピンク、パールイエロー、パールパープル、ホワイトは<MILD>が高得点、ペパーミント、ローズマリー、ペールスカイ、ビビッドブルー、ビビッドグリーンは<CLEAR>が高得点であったことが分かる。また、アニス、ダークグリーン、ダークブルーなどは2因子共に比較的低得点であった。

Table 2-3-1 色彩・香りの因子得点まとめ

因子 刺激	MILD	CLEAR	RELAX	GLOOMY	SERIOUS	POSITIVE	TIRED	IRRITABLE
シナモン	0.04	-0.39	-0.59	0.49	-0.53			
ペパーミント	-0.53	0.61	-0.79	0.14	0.48			
バニラ	1.26	0.28	0.69	-0.20	-0.76			
ローズマリー	-0.46	-0.05	-0.85	0.45	0.08			
レモン	0.36	0.70	-0.10	0.02	0.00			
アニス	-0.28	-0.56	-0.83	0.82	-0.64			
ペッパー	-0.77	-0.39	-1.15	0.52	-0.46			
ローズ	0.38	-0.19	-0.32	0.48	-0.46			
パールピンク	1.59	0.08	0.74			-0.22	-1.25	0.01
パールイエロー	1.25	-0.13	0.77			-0.63	-1.06	-0.01
パールグリーン	0.59	0.28	0.30			-0.64	-1.20	0.06
ペールスカイ	-0.23	0.21	-0.24			-1.18	-0.57	0.05
パールパープル	1.01	-0.01	0.38			-0.88	-0.90	0.07
ビビッドレッド	0.56	0.94	-1.09			0.59	-1.03	0.81
ビビッドイエロー	0.19	1.45	-0.96			0.82	-1.00	0.75
ビビッドグリーン	0.02	0.49	-0.12			-0.06	-0.98	0.21
ビビッドブルー	-1.07	0.52	-0.53			-0.76	-0.69	0.08
ビビッドパープル	-0.09	0.21	-0.97			-0.53	-0.61	0.68
ダークレッド	0.25	-0.77	-0.33			-0.98	-0.40	0.44
オリーブ	-0.09	-1.07	-0.45			-1.38	-0.04	0.70
ダークグリーン	-0.51	-0.87	-0.13			-1.28	-0.42	0.31
ダークブルー	-1.20	-0.67	-0.46			-1.57	-0.36	0.16
ダークパープル	-0.34	-0.71	-0.69			-1.26	-0.25	0.39
ホワイト	0.15	0.98	-0.27			-0.60	-1.53	-0.03
メディアムグレイ	-0.67	-0.63	-0.55			-1.49	-0.10	0.38
ブラック	-1.43	-0.32	-0.71			-1.54	-0.39	0.19

### 3. 色彩と香りとの調和・不調和ペア

色彩と香りとの調和関係を Table 2-3-2 にまとめた。表中で、調和ペアには着色した。

調和の定義は、香りに対する調和色の検討 (§2-1) において、各香りに対する調和色の選択率の集計結果 (Table 2-1-9) で上位 5 位以内であること、さらに色彩に対する調和香の検討 (§2-2) において、各色に対する香りの調和度評定結果 (Table 2-2-11) で評定平均値が 2.5 以上であること、の両方を満たすことを条件とした。逆に、不調和の定義は、各香りに対する不調和色の選択率の集計結果 (Table 2-1-10) で 5 位以内、なおかつ、各色に対する香りの調和度評定結果 (Table 2-2-11) で評定平均値が 2.4 以下、の両方を満たすことを条件とした。

Table 2-3-2 色彩と香りとの調和関係

色 彩 \ 香 り	シナモン	ペパーミント	バニラ	ローズマリー	レモン	アニス	ペッパー	ローズ
パールピンク	不調和	不調和	調和	不調和		不調和	不調和	
パールイエロー			調和			不調和	不調和	
パールグリーン	不調和	調和	調和	調和	調和		不調和	
パールスカイ		調和						
パールパープル			調和					
ビビッドレッド	不調和	不調和		不調和		不調和	不調和	不調和
ビビッドイエロー					調和	不調和		不調和
ビビッドグリーン		調和	不調和	調和	調和			
ビビッドブルー		調和		調和				不調和
ビビッドパープル			不調和					調和
ダークレッド	調和	不調和		不調和	不調和			
オリーブ	調和	不調和	不調和	不調和	不調和	調和	調和	不調和
ダークグリーン				調和		調和	調和	
ダークブルー	不調和		不調和		不調和	調和		不調和
ダークパープル	調和		不調和	不調和	不調和	調和		調和
ホワイト	不調和	調和	調和			不調和	不調和	不調和
メディアムグレイ								
ブラック	不調和	不調和	不調和	不調和	不調和		調和	不調和

色彩・香りの感情効果のまとめ (Table 2 - 3 - 1)、及び色彩と香りの調和関係 (Table 2 - 3 - 2) を照らし合わせてみると、印象評定に関して、類似の感情効果を持つ色彩と香りの調和性が比較的高く、感情効果の特徴が乖離した色彩と香りとの調和性は低い傾向にあることが指摘できる。例えば、<MILD>因子が高得点同士のバニラとパールピンク、低得点同士のペッパーとブラックはいずれも調和関係にあった。逆に、バニラとブラック、ペッパーとパールピンクは不調和関係にあった。<CLEAR>因子が高得点同士であったレモンとビビッドイエローも高い調和関係にあり、低得点同士のアニスとオリーブも調和関係となった。逆に、レモンとオリーブ、アニスとビビッドイエローは不調和な関係であった。

気分評定結果に関しては、色彩と香りの評定軸として共通していたのは<RELAX>因子であった。この因子が最も高得点であったバニラとパールイエロー、低得点であったペッパーとビビッドレッドは、それぞれ調和関係にあった。一方、ペッパーとパールイエローは不調和な関係であったが、バニラとビビッドレッドは不調和関係とは定義できなかった。したがって、少なくとも<RELAX>因子の得点の高低のみに着目した場合、高得点同士あるいは低得点同士の色彩と香りは調和しやすくなる可能性が考えられる。

#### 4. 本章の結論

本章の結論を以下にまとめた。

- 1) 色彩、香りの各々の感情次元として共通していた軸は、＜MILD＞因子、＜CLEAR＞因子の2因子であった。
- 2) 色彩、香りの各々の気分評定主軸として共通していた因子は＜RELAX＞因子であった。
- 3) 色彩、香りの気分評定軸は、大別して快い気分、不快な気分に分けられ、前者にはリラックスした状態、活力の沸いた状態、冴えた状態に分けられ、後者は、憂鬱な状態、ストレスを感じている状態に分けられる傾向にあった。
- 4) シナモン、アニス、ペッパーの各香りは概してダークトーンの色相と調和関係にあり、ペールトーンの色相やビビッドレッドとは不調和関係となった。
- 5) バニラの香りは、ペールトーンの色相と調和関係にあり、ダークトーンの色相やビビッドグリーン、ビビッドパープル、ブラックとは不調和関係となった。
- 6) ペパーミント、ローズマリーの各香りは、緑～青系の色相と調和関係になる傾向にあり、赤系の色相とは不調和関係にあった。
- 7) レモンの香りはビビッドイエローとの調和度が非常に高く、具体的事象の一致性が要因と考えられる。
- 8) ローズの香りは、紫系の色相と調和関係にあった。
- 9) 類似した感情効果を持つ色彩と香りは、調和関係、感情効果が乖離した色彩と香りは、不調和関係になる傾向にあった。